令和7年度

第2回　淵野辺小学校 学校運営協議会（はやぶさネットワーク）

日時　令和7年7月24日（木）　14時～16時
会場　淵野辺小学校2階　会議室

司会：副校長
記録：　教務

＜参加者＞
学校運営協議会　委員
　小川　紳夫（大野北公民館　館長）
　飯島　沙織（にこにこ星ふちのべ商店会　役員）
　鈴木　俊之（青山学院大学コミュニティ人間科学部　准教授）
　前田　高志（麻布大学　教務部長　高大接続・社会連携プログラム開発センター長）
　芹野　浩三（桜美林大学　PFC事務室　室長）
　淺倉　勲（淵野辺小学校　校長）
地域コーディネーター
　福原　信広（サレジオ工業高等専門学校　事務局長）
オブザーバー
　大岸　梢（PTA副会長）
　水下　こずえ（PTA副会長）
教育委員会
　藤原　啓（学校教育課　指導主事）
事務局
　清水　綾（淵野辺小学校　副校長）
　田中　真理（淵野辺小学校　副校長）
　江口　しのぶ（淵野辺小学校　教務主任）
　植松　敏則（副教務・学びコーディネーター）
桜美林大学　PFC事務室職員
学校教職員

1.開会のあいさつ（田中副校長）
　1学期が無事に終わり、工事も進んでいる。移植したしんじゅの木も根付いてきている。

2.教育委員会あいさつ（学校教育課）
「キャリア教育　横の連携」
　相模原のキャリア教育では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力を育むことを目的とし、スタートとゴールを意識した教育課程を進めてきた。コミュニティースクールでは、目指す子供像やつけたい力をみんなで共有して、できることを出し合い実現していく。

3.協議（進行：小川会長）

（1）今後めざすべき学び、連携できる機関等の情報（校長）
　生活科：具体的な活動や体験
　総合：主体的・創造的・協働的
　生活科や総合を主として、外部と連携して学びを進める

（2）地域と連携した活動の構想や課題（各学年・杉の子）

【1年】動物とのふれあい（麻布大） 幼保と連携して1年の成長の姿を見せたい

【2年】町探検（1学期：桜美林　2学期：商店街）

【3年】テーマ・地域

1学期：社会科の市内めぐりから課題設定

JAXA、公共施設、相模原市の歴史地域の方とどのように連携を取ったらよいか悩んでいる

【4年】テーマ・福祉（みんなが安心できる町）

1学期：社会福祉協議会　2学期：自分たちができることを知りたい

高齢者・障害のある方・外国とつながりがある方　街の中のバリアフリー

【5年】テーマ・伝統と文化

1学期：プロモーション戦略科　2学期：伝統食など

淵野辺や相模原市に残っている伝統的なものを知りたい

【6年】テーマ・地域活性化

今までに多くの経験をしてきたので、自分たちの思いを実行に移す力がついている。

イベントやお祭りに目が向いているので、「なぜそれをする必要があるのか」という過程に目を向けさせたい。

地域を活性化させるために自分たちが貢献できることについて関わりを深めていきたい。

【杉の子】テーマ・自立

社会的な自立を求められている

1学期：スーパーへの買い物　2学期：公共の乗り物を

（3）グループ協議「地域や大学と協働した学びの充実をめざして」

（4）グループ協議の内容報告

【Aグループ：小川委員】

・公民館は高齢者がサークルを作って活用しているので、
　関わりがもてるのではないか

・公民館は発表として活用できる場でもある

【Bグループ：飯島委員】

・委員やコーディネーターを窓口に、様々な機関へつないでいただける

・小学生が関われる時間での活動を

【Cグループ：鈴木委員（青山学院大学）】

・学部、サークル、ボランティアがあり、鈴木委員を窓口につないでいただける

・キャンパスを利用させてもらえたらうれしい（虫探し、遊び）

・スポーツイベント

・持続可能なもので淵野辺の町を活性化させていくための話し合いを、
　大学生と一緒に行う方法もある

・学び方を学ぶ場になるとよい

【Dグループ：前田委員（麻布大学）】

・生命の博物館が10周年をむかえる　骨格標本も貸し出していただける
　通常の開館時間でなくても、相談次第で対応ができる

・麻布大に行けば馬とふれあう活動ができる（馬活）

・環境教育　食品に関することでコラボできるかも

【Eグループ：芹野委員（桜美林大学）】

・3年間の活動を通してついた力や関係性を活かしてよい関係を築いていきたい

・年度ごとに担任や子供が変わるので、つながりを続けていくことに課題がある

・大凧づくりの手伝い　演劇部の方に劇を作っていただく　ランタン祭り

（5）各委員・地域コーディネーター

【小川委員】

・よい話し合いができていた

・実りのある夏休みを送ってほしい

【飯島委員】

・淵野辺は人がつながる町。何かあれば力になりたい

【鈴木委員】

・大学生と小学生が協働して学習していくうえで、何かを作ったりイベントをおこなったりするのもよいが、何かをするための考え方の種を撒き、それを継続させていければよいと思う。

【前田委員】

・具体的な体験を通して学んでいくことが大切。動物、環境、食品など生活に密接した学部が多い。学生も失敗を繰り返しながら問題解決の力を養っている。

【芹野委員】

・小学生のうちから地域の方（大人）と関わっていくのは大切なことであると思う。

【桜美林大学職員】

・淵野辺は人と人とのつながりが強い町であると学生を通して実感する。これから先も、小学生の教育、学生の教育、地域活性化が目指せればよい。

【福原地域コーディネーター】

・淵野辺は特殊なまち。アカデミックな機関がたくさんあり、それぞれにプロフェッサーがいる恵まれた環境。

・「相模原ってすごい」「淵野辺っていいまち」という思いを小学校の６年間の学びで育んでいけたらよい。

・この話し合いをストックしていくことで、次の淵野辺小の子供たちにも役立てていける。

・今日話し合ったことを少しでも具現化していく中で、小学生にとって次の学びのステップになるとよい。

（6）その他

4．閉会のあいさつ（学びコーディネーター）

担任は日々の忙しさに流されてしまい、考えを練る時間がなかなかもてない。その中で、夏休みの最初にこのような会を設けていただけるのはありがたい。

＊今後の予定

第3回協議会：11月12日（水）10：00～12：00

第4回協議会： 2月10日（火）14：00～16：00